



先日、東京で働いていたころの同期や大学時代の友人から Facebook や LINE で相次いで連絡もらった。というのも3月11日。東日本大震災から早9年を数えるが、同期や友人それぞれに何かしらの節目として深く刻まれているのだろうと思いながら、当時のことや現在の仕事、生活、コロナウイルスの話まで、懐かしいテンポで会話を楽しんだ。

あの震災による混乱の中、多くの人々が本当に大切にすべきものは何なのかと考えたに違いない。かつて大学進学で地元を離れた直後に病に倒れた祖父の葬式で、死に目に会えず残念がる私に、近所のじい様は「離れているということはこういうことなのだ」と声を掛けた。自分は、家族や大切な人の隣で生きたいと確信した。

実際に転職を決め、アパートを引き払い、仲間に見送られた後、長岡駅のホームに降り立ったのはそれからまた数年後のこと。トウキョウへの憧れ、後ろ髪をひかれるのは“後にした”からこそ。愛する家族や地元の仲間と共に生活していける喜びを噛み締めた。

トウキョウで生活していたころ、私は勘違いをしていた。田舎には仕事がないとか、転職が難しいとか、キャリアを築けないとか。帰郷したいのに帰郷する前から勝手に不安になっていたわけだが、全くの思い違いだった。私だって実際こうして楽しく幸せに暮らしている。

どこでどんな風に誰と人生を歩んでいくのか。それは人それぞれだ。今となっては、海外で

暮らしているものもいれば、私と同じように U ターンして長岡の花火や豪雪を満喫している者もいる。どんな方向に進んでも人に迷惑をかけずに幸せに暮らしていければそれで良いと思う。私は地元に戻って良かったと思うタイプの人間だ。

帰郷してから今年で丸 6 年になる。久しぶりに都内に行けば駅で迷子になりそうになるし方言もすっかり板についたし、もう自分のことを“U ターン組”とは言えなさそう。そういえば、ということではないが今年の秋に新たな家族を迎えることになる。まだ実感もほとんどないが、U ターン後の人生がまた積みあがっていくのを感じている。

親になる実感も何もない中で気が早すぎるが、将来自分の子どもに「(一旦) 地元を離れたい」と言われたらどうするか考えた。

帰りたい地元であり続けるように私は頑張ろう。

なりたいようにやりたいように